



# 動物レスキュー通信

2016年11月 第42号 (平成28年11月1日発行)

発行元 一般財団法人 国連世界動物救済支援機構 詩月財団

詩月(しづく) : 詩月財団 理事長  
愛玩動物飼養管理士 一級  
ペット災害危機管理士 三級  
お問い合わせ : sizuku.foundation@gmail.com

## ネコちゃんとの暮らし

### 冬に気をつけたい病気



イラスト ASH

だんだんと寒くなってきました。人間の体にとって冷えは大敵ですが、それはネコちゃんにとっても同じ事。飼い主さんの間ではインフルエンザが流行したり、ノロウイルスに感染する人が多くなります。猫ちゃんにとつても他の季節に比べると冬は病気にかなりやすい季節です。どんな病気にかかりやすくなるのかを知り、飼い主さんの手によってできるだけ予防してあげることが大切です。ではどんな病気にかかりやすいのか、又その予防法を紹介します。

### 冬にかかりやすい病気

①「猫風邪」人間と同じくネコちゃんも寒く乾燥した冬は風邪をひきやすくなります。猫風邪をひくとくしゃみや鼻水、涙目、たくさんの目ヤニが出るなど、飼い主さんが風邪を引いた時と似たような症状が現れます。ひどい場合には熱が出たり、口内炎ができるネコちゃんもいます。そして多頭飼いの場合は特に気をつけなくてはなりません。猫風邪は他のネコちゃんに感染してしまいます。感染経路としては唾液や鼻水、涙、排泄物などです。うちのネコ達もそうですが、ネコちゃんはお互いに体を舐め合ったりしますので、とても感染しやすいです。猫風邪にかかってしまったネコちゃんがいる場合は隔離し、飼い主さんともそのネコちゃんに触れた手でそのまま健康

なネコちゃんに触れないようにしてあげるなど、感染が広がらないように細心の注意を払ってあげてください。そして身体が冷える事によって抵抗力が弱まってしまうので、ネコちゃん専用の暖かいベッドやマットなどを用意する、そして乾燥を防ぐために加湿器を置くなどしてあげてください。②「尿路結石症」私の愛猫もかかってしまった事があるのですが、尿路に結石ができてしまい、排尿障害を引き起こします。ネコちゃんは自分の身体の汚れを舌で舐めとるため排泄物にとっても強い臭いがあるのが特徴ですが、その尿の濃度はとても濃く、膀胱内に尿が長時間とどまる事によって結石になりやすくなります。できてしまった結石が尿路を傷つけたり詰まらせたりして排尿障害を引き起こしてしまうのです。そして冬は寒いので活発に動く事が減り、じっとしている時間が多いため喉が渇く事が少なくなり、お水を飲む量が減る傾向にあります。そうなるといつも以上に尿の濃度が濃くなってしまい結石ができやすくなります。いつもよりもトイレに行く回数が増えたり、とこる構わず排尿のポーズをするときは尿路結石症にかかってしまっている可能性がありますので、すぐに獣医さんに診てもらってください。重度の状態になってしまうと手術をしなければならなくなる可能性も出てきますので、投薬や療養食で対応できる間に動物病院へ連れて行ってあげましょう。お水をあま

り飲まないよつであれば水分量の多いキヤットフードを食べさせてあげたり、スープ仕立てのフードなどをおやつとして食べさせてあげるのも有効です。③「膀胱炎」ネコちゃんの膀胱炎には原因のはっきりしていない「細菌性膀胱炎」とはつきりしていない「特発性膀胱炎」があります。よく起こるのが特発性膀胱炎で、原因はストレスからくると言われています。そのストレスとは、飼い主さんが想像できる住環境の変化や新しい人やペットなどに加えてトイレの環境も関わってきます。例えばトイレの周りが寒かったり、トイレが汚れているなどのストレスが加わることで排尿の回数が減り膀胱炎になり、その結果、先程の尿路結石を併発してしまう事がよくあるのです。予防策としてはトイレの環境をネコちゃんにとって快適な空間にしてあげる事、安心してくつろげる空間を作ってあげることなどが非常に重要になってきます。

これらの病気以外にもネコちゃんがかかる病気には様々なものがありますが、飼い主さんもネコちゃんも寒い冬には身体が冷え、免疫力が低下してしまいますので窓に断熱シートを貼ったり、暖かい敷物を敷いてあげる、ネコちゃん用のポットカーペットを使用させてあげるなどして、ネコちゃんの身体を温めてあげられるような工夫をしてあげてください。そうする事によって少しでも病気を予防する事が出来て、飼い主さんの金銭的、時間的な負担を減らすことにもつながってきます。それに伴いネコちゃんも過剰な事が出来る素敵な時間が増え、飼い主さんとネコちゃんの間係が良好になり、不幸なネコちゃんも減ってくると思っております。(詩月)